

船舶事故等調査報告書

平成25年1月24日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012長第82号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成24年8月8日 07時50分ごろ
発生場所	長崎県平戸市 <sup>たびら</sup> 田平港 田平港西防波堤灯台から真方位001°150m付近 (概位 北緯33°21.9′ 東経129°34.5′)
事故等調査の経過	平成24年10月1日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 押船 第十五あおい丸、99トン 135480、葵新建設株式会社 B バージ 第六あをい丸、約1,518トン なし、葵新建設株式会社
乗組員等に関する情報	船長、五級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	A 推進器翼に曲損及び欠損 B なし
事故等の経過	A船は、船長ほか6人が乗り組み、船首約5.5m、船尾約6.5mの喫水により、海砂約2,930tを積載して船首約5.0m、船尾約6.0mの喫水となったB船の船尾に船首部を結合して押船列（以下「A船押船列」という。）を構成し、田平港の平戸瀬戸に面する物揚場岸壁から約10m離して係留する予定で約1ノット（kn）の対地速力で北進中、平成24年8月8日07時50分ごろ船首が真方位約320°を向いたときにA船の船尾が物揚場岸壁から約5mの浅所に乗り揚げた。 船長は、係留したのちに船体各部を点検したが、浸水等の異常がなかったので揚荷を行い、その後も運航を継続し、8月20日に入渠して調査したところ、A船の推進器に損傷が発見された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 3 海象：潮汐 上げ潮の初期、潮流 北東流約2kn
その他の事項	船長は、平成22年3月に本船に乗り組んだが、本事故発生までに田平港に入港した経験は約2回であった。 船長は、田平港物揚場岸壁至近の水深が浅いことを前任船長や乗組員から聞いていた。
分析 乗組員等の関与	あり

<p>船体・機関等の関与          気象・海象の関与          判明した事項の解析</p>	<p>なし          あり</p> <p>A船押船列は、田平港において、物揚場岸壁から約10m離して係留する予定で北進中、低速力であったことから、北東流の潮流に圧流されてA船の船尾が物揚場岸壁至近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、A船押船列が、田平港において、物揚場岸壁に係留する予定で北進中、低速力であったため、北東流の潮流に圧流されてA船の船尾が物揚場岸壁至近の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>船長は、本事故後、岸壁付近の水深が浅いところに係留する場合、潮流が止まるまで待機するか、浅所を確認しながら潮流に配慮した操船を行うこととした。</p>